

## 11 教員養成の目標

### ①教員養成に対する理念・構想

本学は、「広く一般学科に関する知識を授けるとともに、深く専門の学術技芸を教授研究して知性を磨き女性としての豊かな情操と高き品性とを養成するをもって目的とする。」（「大阪樟蔭女子大学学則」第1章第1条）ものである。教員養成課程も、この目的の下に置かれており、特に「深い人間理解に基づく、児童生徒一人ひとりを生かす授業（指導）の創造者としての教員の育成」を大切に考えている。児童生徒一人ひとりを人間として発見し、その個性的な在りように目を向け、これを奥深く見つめ、共感的な理解をもって向かい合い、寄り添い、そこに具体的な指導援助の課題を見出し、その課題解決に向けて創造的に行為することの出来る自主的・自立的で実践的な姿勢と能力を持った教員の育成こそが、教員養成本来の責任であると考えているからである。

環境問題・人権問題・食糧問題・南北格差の問題等々の存在する21世紀の極めて深刻な世界情勢。そのような複雑多様で極めて困難な状況下においても、それに負けることなく、たくましく自己の直面する問題に挑戦し、その解決を目指し、自己の生存を切り開き、他者との共生を生み出そうとする気構えと力量とを兼ね備えた次世代を育成するという教育者としての社会的な使命を自覚し、人間としての児童生徒に対する謙虚さと愛情、広くかつ深い教養、そして、教科等に関する専門的知識・技能等を兼ね備えた人間味あふれる教員の養成こそは本学の目指すところである。そしてそれは、本学の教養教育・専門教育・教職教育の総合によって最も望ましく実現可能なものとなると考えている。

### ②教職課程の設置趣旨

今日、わが国においては、教育のよりいっそうの充実が求められ、児童生徒の「生きる力」としての学力の育成が強く求められている。それは、個別的な教科能力の育成にとどまらず、それらを総合し、自らの生存を共生に向けて切り開いていくことによって、この困難きわまる21世紀を豊かに、そして調和的に生きることの出来る主体の育成を目指すということであるだろう。そして、そのような主体の育成のために働く教員の資質のいっそうの向上がきわめて重要な課題として存在しているといわなくてはならない。

そのような課題認識にもとづき、上記①の「教員養成に対する理念・構想」のもとに描かれるごとき教員の養成を目指して教職課程を本学に設置する。具体的には、以下のような力量を持った教員の養成を目指す。

- a 児童生徒の一人ひとりに目を向け、その人間としての全体的なあり方および社会的な背景にまで理解を深め、個々の教育上の必要を判断し、具体的に目標を設定し、その実現を目指して指導を、その児童生徒に寄り添うようにして内からの発

展を支援する、というように指導構想・授業構想をすることの出来る実践的な力量を持った教員の育成。

- b 生徒指導・教育相談等に関しても、常に、児童生徒一人ひとりの特性を把握し、これに即応し、寄り添い、児童生徒一人ひとりの必要を判断し、その実現に向けた歩みのペース等の条件に配慮しつつ、児童生徒の内面の充実によって、問題の解決が可能になるようなプロセスを探りつつ対応を前進させていく、という実践的な力量を持った教員の育成。
- c 「生きる力」の育成と教科能力等の育成との理論的な関係を明確に自覚し、整合性を持った指導を展開できる力量を持った教員の育成。
- d 児童生徒がそこで出会い、ともに生活をし、学習活動や遊びをとおして、互いを理解し、調和的な生き方を生み出していく場としての学級の成立と充実と発展を可能にする力量を持った教員の育成。
- e 各教科や各領域、さらには、特別活動や道徳教育、総合的な学習の時間等に関する十分な理解をもち、それらを活用して、児童生徒の内的な充実と発展を可能にし、その結果が、児童生徒の人間形成に結実していくように指導を構想し、実験的にこれを展開し、更なる指導の充実を目指す、というように指導を動的・実践的に展開できる力量を持った教員の育成。
- f 単に自己が担当する教科や領域のみの知見を持ち、それを伝達するという低い意識にとどまることなく、人類全体を巻きこんでいる世界危機とも言うべき状況に関して、自らも積極的に関わり、その問題解決に向けて生きる者として、教育の常なる前進を、教員相互において求め合う研究的な生き方を展開する主体としての力量を持った教員の養成。